

尿から検出された *Parabodo caudatus*

◎井上 姫那¹⁾、佐伯 仁志¹⁾、小林 悠希¹⁾、齊藤 由美¹⁾、松村 隆弘²⁾、木村 俊久³⁾
独立行政法人 国立病院機構 敦賀医療センター¹⁾、学校法人北陸大学²⁾、独立行政法人国立病院機構敦賀医療センター³⁾

【はじめに】今回我々は人体からの検出報告が少ない鞭毛虫 *Parabodo caudatus* (以下 PC) を検出した症例を報告する。

【症例】80 才代男性。神経因性膀胱にて自宅で自己導尿を行い、3 カ月に 1 回定期受診していた。20XX 年 7 月上旬に提出された尿沈査にて、鞭毛と運動性を有する白血球よりもやや小型の虫体を検出した。主治医には「鞭毛を有する原虫を認める」と報告した。

【経過】検査室から報告を受け、メトロニダゾール (フラジール®内服錠) 250mg が 10 日分処方され、経過観察となった。同年 7 月下旬、受診時の尿沈査にも前回同様虫体を認めたため、メトロニダゾールは投薬中止となった。また、鞭毛虫で日常遭遇する *Trichomonas vaginalis* (膣トリコモナス:以下 TV) とよく似ていたが鞭毛の本数や虫体の大きさおよび運動性が異なることから鑑別不明な虫体となったため、7 月上旬の採取尿を検体とし、虫体の遺伝子検査を実施し、PC と同定された。その後 10 月上旬の尿沈査中に細菌は認めたが虫体は検出できなかった。

【考察】PC は自由生活性で、水や土壤に存在し病原性のない虫体と考えられており、通常は人体からの検出は稀である。今回検出された PC は他の日常遭遇する鞭毛虫との鑑別が重要である。日常遭遇する鞭毛虫である TV との鑑別は①採取後の時間経過にもよるが TV よりも運動性が良好で移動速度は速い。②鞭毛を一本有する。③虫体が TV よりも小型で三日月状である。これら全ての点から鑑別が可能とされる。また尿からの検出背景として、メトロニダゾールを投与したにも関わらず、尿沈査において虫体が消失していなかったことおよび患者が自宅で自己導尿を行っていたことから、自己導尿を行っている環境に由来したのではないかと推測された。また 10 月上旬の採取尿では虫体が検出されなかったことについては、患者は 7 月下旬以降で新居に転居しており、自己導尿を行う環境が変化したことが起因していると考えられる。また、PC は文献的に環境汚染の指標とされている報告があることから患者背景を考慮し、結果を報告する必要があると考えられた。

(連絡先 0770-25-1600)